

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立南郷中学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

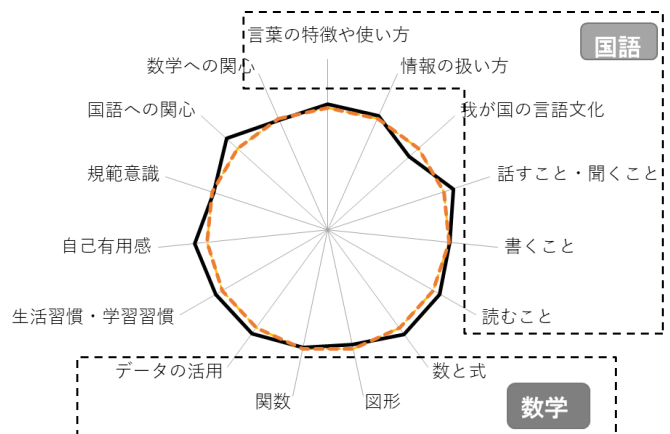
国語・数学ともに正答率が全国平均・県平均を上回りました。国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の取り扱いに関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する設問で正答率が高い結果でしたが、「我が国の言語文化に関する事項」に関する設問で課題が見られました。数学では、「数と式」「データの活用」に関する設問で正答率が高い結果でしたが、「図形」「関数」の設問で課題が見られました。

質問紙調査では、「生活習慣・学習習慣」の項目で平均を上回る回答の結果でした。

《強み・弱み》

国語・数学ともに「知識・技能」を問う設問では、全国平均を上回り、「思考・判断・表現」を問う設問について、国語は全国平均を上回りました。また、国語・数学ともに「選択式」「短答式」の設問では、全国平均を上回りましたが、「記述式」の設問で下回りました。強みとして、国語・数学ともに基礎的な学力の定着が伺えます。一方で弱みとして、自分の考えを表現したり、論理的に説明したりすることについて苦手な傾向が伺えました。

質問紙調査で「平日どのくらい勉強時間を確保できているか」を問う設問では、「1時間以上」取り組んでいると回答した生徒が78.6%ありました。全国の回答と比較しても高い値を示し、家庭学習の取組が強みとして今回の調査結果に繋がる要因のひとつと考えられます。また、前回の調査で課題のあった「自分にはよいところがあると思うか」を問う設問では、91.3%が肯定的な回答を示し、全国の回答と比較しても高い回答結果でした。さらに、「友達関係に満足しているか」という設問では94.5%、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」という設問では80.2%が肯定的な回答でした。多くの生徒が「自己有用感」を感じ、友人やまわりの大人を頼れる存在だと考えて、良好な関係で生活できている様子が調査結果から伺えます。



※破線は全国平均を表しています

【指導の充実に向けて】

- ・学校全体で「自分のことを好きになる」「人の縁を大切にする」という言葉を大切に教育活動に取り組んでおり、「自己有用感」や「良好な人間関係」に繋がっていることが伺えます。これまでの取組を引き続き進める一方で、肯定的な回答ができなかった生徒に目を向け、より丁寧に生徒の課題に寄り添える取組を進めていきます。今年度、ユニバーサルデザインの視点を取り入れて校内研究を進めておりますが、研修や教員相互の授業参観等を通して、居心地・学び心地のよい学校づくりに努めていきます。
- ・授業でのICT活用については高い回答結果を示しており、さらに効果的なタブレットの活用等について研修や情報交流を図り、授業改善を進めていきます。
- ・国語だけでなくすべての教科で「書くこと」を意識した学習に取り組み、論理的に説明したり、自分の考えが伝わるように表現の効果を考えたり、日頃から自分の考えが伝わる文章になるように工夫できる力を高める取組を進めていきます。